

「おおらかな」「楽しい」感情を生む新処方が誕生 使用感触を調整することで、目的の感情変化の促進に成功

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：釘丸和也）は、これまでの感性学的研究成果を生かして「おおらかな」「楽しい」といったポジティブな感情変化を後押ししてくれる新処方（化粧水および保湿液）の開発に成功しました。

経緯

近年では、忙しくストレスフルな毎日を過ごす方が増え、スキンケア製品にもそのような生活をバックアップできるような心への働きかけが求められてきています。このような社会的ニーズから、同社では、スキンケア製剤そのものによる心への働きかけかをテーマに研究し、使用感触と感情変化の関係性の解明を進めています。

今回、お客様の【になりたい気持ち】を後押しできるスキンケア化粧品を開発したいと考え、お客様の求める感情変化を実現できる新たな処方の開発に取り組むとともに、実際にその処方が感情に影響をおよぼすかを検証しました。

【になりたい気持ち】は「楽しい」「おおらかな」「わくわく」

当グループが行ったアンケート調査によると、20～60代有職女性が「心に余裕を持って前向きであるために必要だと感じる気持ち」は図1の通りでした。そこで、スキンケア感触と感情変化の関係性に関するこれまでの研究成果をもとに、スキンケアの使用感を調整することによって、必要とされる気持ちを高める新処方を開発、その作用を検証することとしました。

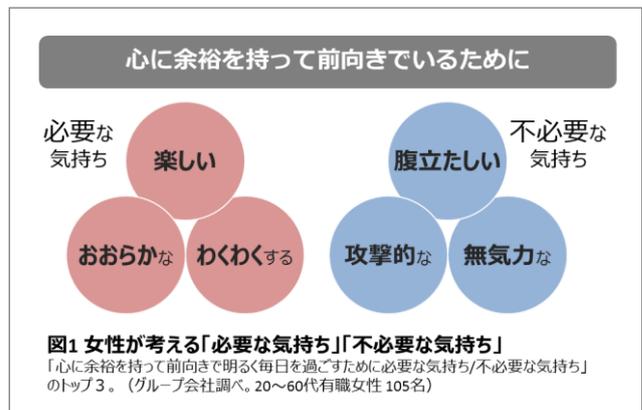
「おおらかな」「楽しい」気持ちが高まる スキンケア感触を実現

一般女性 271 名に、開発した新処方（化粧水、保湿液）と既存処方（自社の一般的な化粧水、保湿液）を 2 日間ずつ使用していただき、その間毎日、夜のスキンケアを終え、寝るまでの間にさまざまな感情（35 項目*）の状態を 7 段階で評価してもらいました。

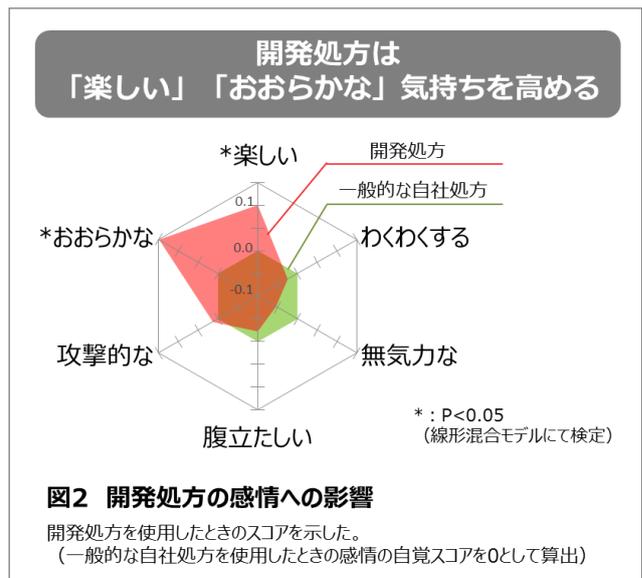
※ 研究にて一般的に使用される感情項目を抽出

その結果、新処方を使った日は既存処方を使った日に比べて「おおらかな」「楽しい」という感情が有意に高まっていたことが分かりました（図2）。このことから、新処方は、毎日の生活の中で使っていただくことで、お客様の気持ちをより前向きな気持ちへ後押ししてくれると期待できます。

同社はこれまでも、ターゲットとするお客様に満足いただける使用感や心地よさを追求してきましたが、今回、「おおらかな」「楽しい」といった感情の変化という価値まで提供することが可能になりました。この成果を第一歩として、今後もポーラ化成工業は、最先端の技術を取り入れ、さまざまなテクノロジーを活用してお客様の幸せの実現を目指します。



▼ 感触を調整した処方を開発



【備考】 ポーラ・オルビスグループの研究体制について



1) 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

Multiple Intelligence Research Center (MIRC : マルチプルインテリジェンスリサーチセンター)

化粧品の既存の枠を超えた新価値創出を狙い、グループ視点での研究戦略および知財戦略を策定し、研究成果のグループ最適配分の役割を担います。また、マーケットリサーチとイノベーション案件の探索に特化した専任スタッフを配置し、全世界から次世代のニーズを収集、最先端技術との連携や投資案件の探索を行います。

2) ポーラ化成工業株式会社

Frontier Research Center (FRC : フロンティアリサーチセンター)

グループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社のFRCは、MIRCで決定した戦略に基づいて、新価値創出を目的とした研究を実行し、新規・既存事業へ活用するシーズを創出する役割を担います。